

氏名	櫻井 淳
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4068 号
学位授与の日付	平成 22 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Radiofrequency Ablation of Small Lung Metastases by a Single Application of a 2-cm Expandable Electrode: Determination of Favorable Responders (2cm展開針を用いた転移性肺腫瘍に対するラジオ波焼灼術：1 部位焼灼の適応)
--------	---

論文審査委員	教授 三好新一郎 教授 吉野 正 准教授 木浦 勝行
--------	----------------------------

学位論文内容の要旨

転移性肺癌に対して 2cm 展開針を用いた single application(1 箇所のみ)の radiofrequency ablation(RFA)を行うの適応を決定する。Single application を行った 36 人 88 結節 (平均腫瘍径 0.9cm) を対象に後ろ向きに検討した。各危険因子と局所制御の関係を、Kaplan - Meier 法 (log-rank test) を用いて検討した。また危険因子を除外した局所制御率も求めた。局所制御率 (観察期間中央値 13.2 か月) は全体で 1 年 92%、2 年 90% だった。再発危険因子として腫瘍径 (>1cm) ($p=0.033$)、気管支と接すること ($p=0.047$) が挙げられた。1cm 以下で気管支と接さないものの局所制御率は 1 年、2 年とも 96% だった。1cm 以下で気管支と接さないものは Single application のよい適応であった。

論文審査結果の要旨

転移性肺腫瘍に対する手治療法の一つとしてラジオ波焼灼術 (Radiofrequency ablation: RFA) があるが、RFA にとって局所制御率をいかに上げるかは重要な問題である。本研究は 2 cm の展開針で経皮的に腫瘍の中心を穿刺した後針を展開させ、位置を変えずに焼灼を行った時 (single application) の局所制御率を求め、その適応を検討している。再発危険因子として腫瘍径 (>1cm)、気管支と接することが挙げられ、腫瘍径が 1 cm 以下で気管支と接さないものの局所制御率は 1 年、2 年ともに 96% と良好だった。以上より 1 cm 以下で気管支と接さない転移性肺腫瘍は single application のよい適応と結論している。高い局所制御率を得るための FRA の適応基準を示したことは、臨床上重要な所見であり価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。